

実践事例の概要

① 姫路市立城東小学校

JSLカリキュラムの考え方を基本とした1年生算数科の指導事例です。視覚に訴える教材や具体物の操作で思考を促しつつ、「○○が ○こ おおい」という学習に不可欠なフレーズを工夫したワークシート*1を用いて何度も繰り返す言語活動と結びつけ、学習言語としての定着を図ろうとしています。これらは学級担任が在籍学級で教科の授業を行う際にも大切にしたいポイントです。

※ P 8～11に記載

② 宇都宮市立清原東小学校

学年の時間割をそろえて外国人児童すべてを取り出した効率的な指導がなされています。また、個人カルテによって児童のつまづきが把握され、在籍学級の担任との連携のもと、きめ細やかな教科指導が行われています。JSLカリキュラムが取り入れられている6年生算数科の授業では、身近な飲み物を教材として扱うことで児童の学習意欲を高め、「割合」の概念を体感的に理解させる指導過程が組まれています。

※ P 12～18に記載

③ 松阪市立第五小学校

2年生算数科の国際教室での取り出し指導を、在籍学級における教科の授業に先行して進めている事例です。国際教室、在籍学級ともにJSLカリキュラムを基本として、「教科の目標」と、アクティビティー・ユニット一覧から選んだ学習活動に対応した「日本語の目標」とを設定して指導を進めています。半具体物を用いた操作を通じて学習への関心・意欲を高めるとともに、「～ずつ」「～の～つ分」など乗法の問題文に使われている表現を意識した指導計画です。

※ P 19～27に記載

④ 鈴鹿市立桜島小学校

国際教室と在籍学級での国語科の授業の一例です。いずれの授業も、JSLバンドスケール*2によって日本語の4技能（聞く、読む、書く、話す）における児童一人ひとりのレベルを把握し、リライト教材を活用したり、身ぶりや動作化を取り入れたりして指導されています。在籍学級での授業については、国際教室での先行学習を生かした事例です。

※ P 28～34に記載

⑤ 鈴鹿市立牧田小学校

国際教室での国語科の授業、在籍学級での算数科の授業の一例です。いずれの授業もJSLバンドスケールで日本語力を把握した上で授業を行っています。単元毎に「支援シート」を作成し、個に応じた学習への支援ができるように、日本語の力、経験、知識、友だちとの関わり等における一人ひとりの状況をもとに、在籍学級と国際教室との連携上の工夫や手立て等が示されています。

※ P 35～63に記載

*1 学習効果を高めるため教科書と同じイラストを用いて作成していますが、著作権の関係で類似のものにさしかえて掲載してあります。

*2 JSLバンドスケールについては、P 31に詳しく説明しています。